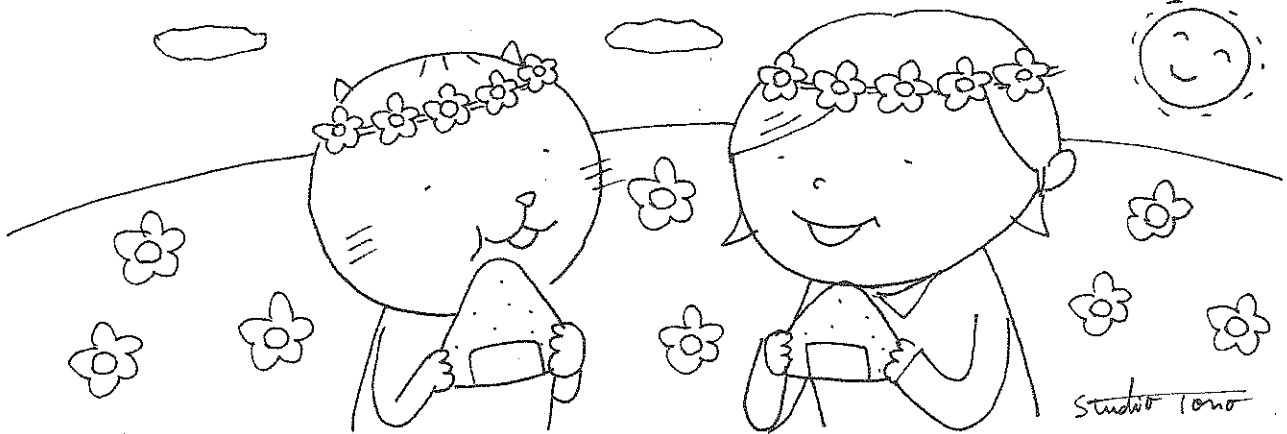


ボランティアグループがつくる和歌山県男女共同参画センターの書評誌

この本よんだ？

～りいふる BOOK プラス～



**馬鹿ブス貧乏で生きるしかないあなたに
愛をこめて書いたので読んでください。**

藤森かよこ 著 株式会社ベストセラーズ 2019年 (K: エッセイ・文学)

本書は、あなたが「馬鹿ブス貧乏」でも、幸福に生きていくための指南本です。年齢に応じて三部構成になっていて、容貌、仕事、性、お金、健康などのテーマに関して、「このように向き合ったらいい」という著者の信条が書かれています。また、全体を通して、学び続けることの重要性を説かれていることが印象的です。

おもしろく読めますが、私は、読めば読むほど「馬鹿ブス貧乏」な自分を認め、向き合うことになってしまいました。それは少しつらいことです。しかしそれ以上に、人生はおもしろく、自分をかわいそうがっている暇はないと思われました。そして、本書は「おすすめ本ガイド」でもあり、読めば有益な書籍もテーマに沿って紹介されています。身近に置いて何度も読み返したい本です。結局、タイトルに関係なく、自立的に人生を楽しみ尽くしたい全ての人に役立つ本なのではないかとも思います。ぜひ、読んでみて下さい。



(A.T.)

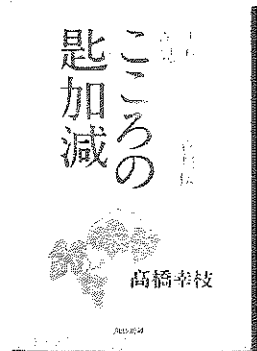
100歳の精神科医が見つけた 心の匙（さじ）加減

高橋幸枝 著 飛鳥新社 2016年 (E: ころ・いやし)

著者は、令和2年2月 103歳で亡くなりました。精神科医として半世紀にわたり学んだことを、より多くの人達の生きるヒントとして、簡単に実践できる40項目を紹介しています。匙加減とは、クスリの調合具合からきた言葉であり、程良いバランスです。

第1章「生き方の匙加減」第2章「暮らしの匙加減」第3章「健康の匙加減」第4章「人づき合いの匙加減」第5章「やさしさの匙加減」です。現在は情報過多の時代で、本当にどの情報が自分にとって良いのか、わからなくなってしまいます。自分のちょうど良い「匙加減」を見つけ、人生を豊かに過ごしていくことを本書は、教えてくれます。心も体も楽になりましょう。

(はんちゃん)



100万分の1回のねこ

江國香織ほか12名著 講談社 2015年 (K: エッセイ・文学)

書名にひかれ、13人の著者たちの短編集という構成にひかれた。

まず好きな作家、今江祥智、谷川俊太郎作を読み、あとは目次順に読んでみた。ほとんどが20ページ前後の掌編だが、そこに描かれている世界は深い。

なんといっても、さりげなくそして巧妙に、存在感ある「ねこ」を描出して物語の魅力を高めていて、献辞「一絵本『100万回生きたねこ』と佐野洋子さんに愛をこめて」に結集した、今をときめく作家たちの秀作だと思った。

蛇足ながら、佐野洋子作のこの絵本は1977年刊行。この13人の短編集は2014年発行。なんと37年後の贄辞ということか。「途切れることなく読み継がれているロングセラー絵本」を読み返さねばと思ったことだ。

(大空)



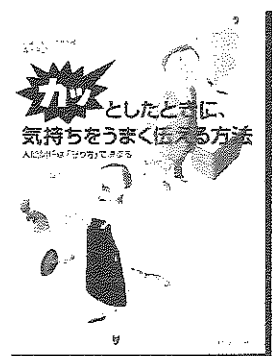
カッとしたときに、気持ちをうまく伝える方法

ジュディ・フォード 著 森尚子 訳 ダイヤモンド社 2002年 (E: ころ・癒し)

コロナの話が始まり約1年がたつ。ステイホームの機会が増え、家の中で密なことが増え、家庭内でイライラすることが多くなったという話も聞くようになった。これまでも、DV、虐待、いじめ、反抗期、うつなど怒りの気持ちをことばでうまく処理できないからおこる暴力などの問題行動はあった。

本書は、家庭問題カウンセラーを20年してきた著者が、怒りがどうして起こるのかを分析し、怒りからおこる夫婦、親子、職場でおこる人間関係の傷を修復する方法について書いたものである。よくわからない不安から起こる怒り、イライラについて自覚することにより、しずめることができることを指摘している。学習することにより、怒りを前向きな方向に使い、おだやかな世の中になればよいと思う次第である。

(か)



美智子さま マナーとお言葉の流儀

渡邊みどり 著 こう書房 2019年(O:その他)

美智子さまの気品溢れるマナー、立ち居振る舞いは「日本一のお手本」そのものだという著者は美智子さまに関連する多くの著書を出版しているが、この本は一般の人でも参考にできるマナーやお言葉について解説している。

ご成婚パレードの取材からずっと美智子さまのお姿を追い続けてきたという筆者ならではの、数々の知られざるエピソードをおり混ぜながらの、人として女性としてのあるべき姿を学ぶことのできる本である。

皇室に関心のない方も、誠実な美しさで出会った人すべてを魅了する美智子さまのお人柄にこの本を通して是非ふれてほしいものである。



(花賀)

結婚不要社会

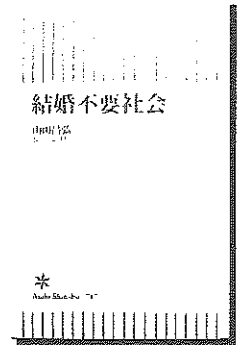
山田昌弘 著 朝日新書 2019年(C:家族・結婚)

日本では結婚しない人が増えている。そもそも結婚の意義とは何なのだろうか。

本書のタイトルは「結婚不要社会」。著者は「パラサイトシングル」や「婚活」など、現代を表象するキーワードを生み出してきた社会学者の山田昌弘。本書を通して著者が言いたいのは、「結婚難」な日本の現状だという。

自分で配偶者を見つけなければならない「近代的な結婚」は、日本では戦後に広まってきた。著者は、「経済的」「心理的」に不可欠な相手を選ぶ「近代的な結婚」は、その両者を同時に満たすことが次第に困難になってきているという。欧米では事実婚や同棲といった、結婚という制度に縛られない「結婚不要社会」となることで、この問題を乗り越えてきた。一方、日本は別の理由で「結婚不要社会」になったという。それは、如何なる理由なのか、是非本書を読んでいただきたい。

著者は「結婚難」の解決には悲観的になりながらも、「婚活」を推進し続けている。結婚困難は人口減少をもたらし、様々な社会問題を招来させていると巻末で述べている。(0.5)



しがみつかない生き方

香山リカ 著 幻冬舎新書 2009年(K:エッセイ・文学)

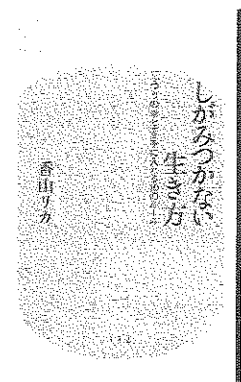
精神科医である著者が提案する「10のルール」が書かれている本。

それは誰でも「ふつうの幸せ」を手にする、生き方のルール。「すぐに水に流さない」「仕事に夢を求めない」などの、「えっ!？」というものも多い。

根底にあるのは「あいまいさを認めるゆとりをもって、こだわらず、しがみつかずに自分の人生を生きよう」というメッセージ。

「まあ、私がいなくても代わりに人が何とかしてくれるだろう」というくらいの楽な姿勢が、肩の力が抜けて結果的に一番いい状態で生きられるのではないか、という逆説的な助言に、眼からウロコが落ちる思いがした。

(やっくん)



新みだれ髪全釈

逸見久美 著 八木書店 1996年 (K:エッセイ・文学)

情熱の歌人といわれる与謝野晶子は明治11年(1878年)、現在の堺市に生まれました。17歳頃から雑誌に短歌を投稿し、その才能を発揮していきます。本書は彼女の第一歌集にして代表作でもある「みだれ髪」399首について詳しく解説しています。著者は与謝野晶子研究で名高い文学博士です。

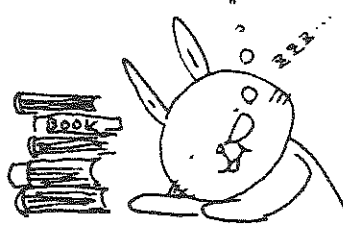
私が高校で使っている「倫理」の教材には、平塚らいてう(りいぶるに全集があります)とのいわゆる母性保護論争が出てきます。国家は母性を保護すべしというらいてうに対し、晶子は国家による母性保護を否定し、女性の経済的自立を主張しました。12人もの子を産んだ彼女ならではの迫力です。また日露戦争に際して従軍する弟の身を案じ「君死にたまふこと勿れ」と詠んだ話も出てきます。

分厚い本ですが、自分の気に入った歌を見つけて、その解説を読むだけで彼女の魅力に触れることができます。私の好きな歌は「むねの清水あふれてつひに濁りけり君も罪の子我も罪の子」。人は恋をして濁っていく、罪深くなっていくという人生観に圧倒されます。

私がときどき走りに行く堺の浜寺公園には晶子の歌碑があります。この本を手にはぐらりと訪れてみるのも一興です。

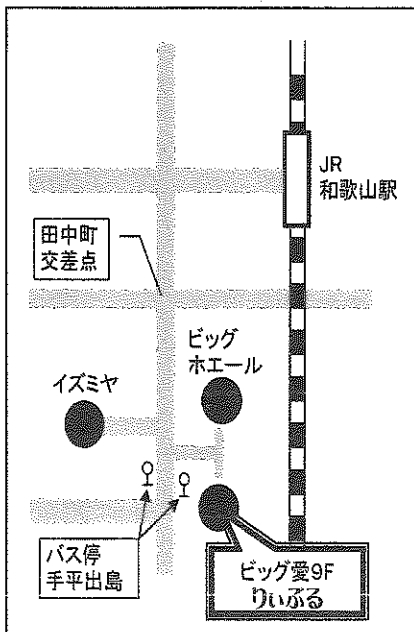
(紀生)

新みだれ髪全釈



※“りいぶる”での分類記号一覧

A:フェミニズム B:労働・法律 C:家族・結婚 D:女性・子どもに対する暴力 E:こころ・癒し F:子育て G:からだ
H:セクシュアリティ I:女性史 J:自伝・評伝 K:エッセイ・文学 L:高齢社会・福祉 M:男性学 N:資料・雑誌 O:その他
P:AV資料 Q:コミック R:NPOサポートセンター所蔵図書



この本 よんだ? 第22号 (2021年04月発行)

◇企画・発行 りいぶるぷらす

◇協力 和歌山県男女共同参画センター“りいぶる”

【編集後記】

1年たってもコロナが終息する様子はありません。今号もなんとか発行できました。HPによる連絡のやりとりはできましたが、オンライン会議にはいならず、私は校正会議の日に雪が積もり出かけられず真っ青。他のメンバーで対応できましたが、コロナ対策のため新年会もおこなわずでした。また笑ってみんなで、本の話をはじめいろいろな話ができる日がまじどおいしいです。

★あなたも書評を書いてみませんか? ボランティアスタッフ募集。メールでお問い合わせください。 E-mail libreplus@yahoo.co.jp